

見いつけた

令和3年度
立山町立釜ヶ淵小学校
第1学年 学年だより
6月号

働くことについて考える

人は、生まれてから死ぬまで、多くの時間を働くことに費やします。そのため、仕事はその人の生きがいである時、または自分の仕事の意味を考えて仕事に取り組むことができる時、人は人生に幸せを感じながら生きることができます。そして、どのように仕事に向き合うか。例えば、「自分の夢を実現したい」、「世の中の人の役に立ちたい」、「自分に満足のいく仕事をしたい」等、その人の価値観や生きる意味、人間性や生き方が、働く姿（仕事に向き合う姿）に表れてきます。

昔、池波正太郎の「鬼平犯科帳」という番組の中で、主人公の鬼平が「人間遊びながら働く生き物さ。悪いことをしながらつついよいよこともするし、よいことをしながらそれと気付かず悪いこともする」と漏らす場面がありました。仕事（＝その人の行為）というのは、その人の人生そのものであり、味わい深いものだという懷述だったことが心に残っています。

では、子供たちは、どんな姿で、どんな仕事をしているのでしょうか。

○ ボランティアの時間

木曜日の朝。ボランティアの時間は、自分で清掃場所を考えたり、使ったことのないモップ等の道具を使ったりできることから、子供たちの楽しい時間になっています。

子供たちは、「花壇の草取りをしよう」、「教室の本棚の整頓をしよう」、「児童玄関の土の汚れをきれいにしよう」と、勢いよく教室をとび出して行きます。何とも、うれしい光景が見られます。

ある時、Hさんに「ボランティアは、たいへんでない？」と聞いたところ、「ボランティア、楽しいもん」と笑顔で答えてくれました。Kさんは、「友達と一緒に活動できるから、うれしい」と、二人で本の整頓をしました。どちらも、あっさりと返答してきたので、本心から喜びを感じて取り組んでいることが分かりました。とてもすてきな姿でした。



また、お天気がよい日は、すがすがしく気持ちがよいのでしょうか。子供たちは、花壇に生えている細かい草の根まで取って、5月終わりに植える花苗のために、きれいにしました。男子は大胆に、女子は丁寧に土を落としていて、その様子をうかがいながら、微笑ましくなりました。花苗が来ると、子供たちは、きれいな状態の花壇に、苗が傷まないよう、心を込めて大切に苗を植えました。そのおかげで、すてきなやさしい花壇ができあがりました。



○ 清掃時間

普段の清掃はというと、ボランティアの時間と様子が違ってきます。習ったやり方で雑巾がけをしたり机を上げたりします。ある時は、重い机を床が傷付かないようにと持ち上げて運んでいるのですが、ともすると、友達としゃべっています。全力でというわけにはいかないようです。

○ 「そうじめいじん」を目指して

そこで、用意したのが、バンダナ3枚。「くらしのたしかめ」の時間に、子供たちに、提示した言葉は、「そうじめいじん」。名人になった子供には、清掃時間、バンダナを着けることができる特典付き。そして、バンダナの数、3枚という条件付き。

最初はバンダナ欲しさに一生懸命清掃に取り組むはずだが、やりながら互いのもつ価値観や生き方が交流され、最後には自分なりの「働くこと」の意味や価値観を感じていくことを期待して、「そうじめいじん」の活動を子供たちに委ねました。

Hさんの「どうとくファイル」の記録です。

5 / 2 5 ぞうきんが、まっくろになりました。いろんなところをがんばりました。つくえのあいだをがんばりました。

5 / 2 6 きょうも、がんばってそうじをしました。だって、そうじめいじんになりたいからです。ごみがいっぱいあったので、そうじをするのがたいへんでした。せんせいのつくえのしたもそうじしました。ごみがいっぱいあったので、そうじしました。

6 / 3 ぞうきんが、やぶれそうになりました。それに、まっくろになりました。かんがえて、すみっこをそうじしました。「そうじめいじん」は、がんばっていろんなばしょをやったひとで、きめればいとおもいます。それに、ぞうきんがくろくなくないと、そうじしていないしるしだから、くろくなったひとがなればいいです。

何かの活動をする時、自分の思いやスタンスをはっきりもち、行動に移すHさん。今回も、「そうじめいじん」になりたくてたまらないようでした。それは、普段から、真面目に清掃に取り組んでいたHさんだったからこそ、余計にその思いは強いものになったのでしょう。

そんなHさんは、今のままでは「そうじめいじん」に届かないと考えたのでしょう。何とかしよう。これまでのように、教室の真ん中を雑巾で拭くだけではなく、みんなが掃除しないような隅の方を雑巾がけしようと考えたのでした。やがて、Hさんの雑巾は、破れそうになるまでになり、色はどんどん黒くなりました。

2週間後の6月7日。2時間の話合いの末、子供たちは、雑巾の黒さで「そうじめいじん」を決め、みんなで審査しました。選ばれた3人のなかに、Hさんも入っていました。Hさんは、とび上がらんばかりに、うれしさを体全体で表していました。

ものごとは、いつも向こうから来てくれるわけではありません。時には、ものごとを自分の方に引き寄せ、自分の問題としていく「主体性」が必要になってきます。いつもの掃除であっても、「自分に誇れる（満足できる）仕事ができる人」を目指して、Hさんのチャレンジが始まりました。Hさんに続いて、次の名人を目指せ！チャレンジっ子！

